

平成 30 年度 第 1 回学校関係者評価委員会議事録

日時：平成 30 年 6 月 12 日（火）18:00～19:00

場所：大阪医療福祉専門学校 10 階 1001 教室

司会：大槻教務課長

書記：澄川事務課長

外部：勝元 伸二（業界代表）・湖崎 淳（業界代表）・段上 靖治（業界・卒業生代表）

中山 哲也（高校代表）・島袋 美紀（保護者代表）・田中 幸恵（近隣関係者代表）

*欠席：三原 修（業界代表）

内部：橋本 勝信（常務理事・学校長）・赤松 滋子（事務局次長）・岸村 厚志（教務部長）

大槻 哲也（教務課長）・澄川 良一（事務課長）

1. 常務理事・学校長ご挨拶

（橋本常務理事）

平成 30 年度学校関係者評価委員会に参加していただきましてありがとうございます。大阪医療福祉専門学校はリハビリ関係の人材育成をしており、非常に高い評価を受けています。職業実践専門課程の中に学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会がございます。

学校関係者評価委員会は、地域の方々、教育の方々、業界の方々、保護者の方々、OBの方々から意見を承りながら学校の改善すべきところは改善しながら新しいものは取りくんでいながら地域になくてはならない学校を目指していこうとしてスタートしています。

この学校は社会貢献を多くやっている学校でありまして、その当たりも意見を承り、PDC サイクルを回しながらいい学校づくりをしていきたいと思っています。また今後とも先生方お忙しい中ではございますけれども支援を賜りながら私達も貢献していきたいと思っておりますので、御支援のほどよろしくお願いいたします。

2. 委嘱状授与

（大槻教務課長）

平成 30 年度から 2 年間新しくまた引き続きこの委員になってくださった方々に対して委嘱状を授与させていただきたいと思っております。それでは名前をお呼びしますのでよろしく申し上げます。

昨年度を振り返りまして、昨年度の自己点検、自己評価について岸村の方から報告させていただきます。

3. 平成 29 年度 自己点検・自己評価の内容説明について

（岸村教務部長）

まず 1-1 について 1~3 を○と自己評価させていただいています。4 について、まだ課題があると思っているのでこのようにしています。

学校の特色はなにかについて、1~3 番は○にして、4 番については未成年で喫煙している学生がおりまして地域からの信頼はこういった点数になっています。

1-3 について 1~4 番までは○としていますが、将来構想を職員全員が熟知しているかはまだまだ課題となるためこういった評価とさせていただいています。

2-4 について自己評価として 4 点とさせていただきます。事業計画が定められているかですが、将来構想と上手くマッチングできないため 3 点とさせていただきます。2-6 について自己評価として 4 点とさせていただきます。

2-7 についてこれも自己評価として 4 点とさせていただきます。2-8 について課題があるため 3 点とさせていただきます。

2-9 について検証が不十分だと考えております。

3-10 について完璧ではないため○をつけませんでした。3-11 について、4 番がまだ難しいと考えております。

3-12 について 4 番についてまだ公表できないため○をつけておりません。

3-13 について 4 番についてまだ若干の課題があるため、3 点とさせていただきます。

3-14 について自己評価で 4 点とさせていただきます。3-15 について自己評価 4 点とさせていただきます。

育成マップに沿った授業を行える教員を確保しているかの要件について、教員の退職などあり 1 番がとれていません。

3-17 について 4 点とさせていただきます。3-18 について国家試験の全国平均を上回っているため 4 点とさせていただきます。

就職に関しましては 100%のため 4 点とさせていただきます。

4-20 について 4 番についてできている学科もありますができていない学科もあるため、まだ○をつけられない状態です。

4-21 についてモチベーションを維持できているとはいえないため、○はつけられないと思いました。

4-22 について 4 番について、卒業生の活躍をすべてできているとはいえないため○はつけられませんでした。

5-23 について、4 点とさせていただきます。

5-24 について、自己評価としては 4 点とさせていただきます。

5-25 について、4 点とさせていただきます。

5-26 について、健康診断と 2 次診断も 100%受けているため、健康に対するサポートができていると考えております。

5-27 について 3 番についてすべて発表する場がないため、3 点とさせていただきます。

5-28 について整備されているため、4 点とさせていただきます。

5-29 について本校としては自己評価 4 点とさせていただきます。

5-30 について 1~3 番を○とさせていただきます。今年度で各学科が独自で行えるようになるため 3 点とさせていただきます。

6-31 について、本校は WiFi 環境も整えておりますのでほぼ完璧といえると思いますが、昨年度リハビリテーション教育評価より電子媒体の検索を指摘され整備は難しいため、3 点とさせていただきます。

6-32 について 2 点としています。バラエティに富んだ施設と提携できているかについて、第 2 の施設とは提携できていますが、これも昨年度リハビリテーション教育評価のところ、作業療法士学科が指摘され、精神分野、発達分野の全域を見れる体制が整っていますかと言われ、正直施設が少なく提携が不十分のため、○がつけられませんでした。

3 番について業界全体の課題かと思いますが、実習地様の状態もさまざまでしてだいぶ卒業生を送っ

ているところを実習地させていただいており同レベルにはなっているかと思いますが、素晴らしい実習地とお互い絡み合う必要があるため、厳しいですが2点とさせていただいております。

6-33について、非常食がまだ本校に届いていないため、今現在は3点とさせていただいております。

6-34にていて、定員を満たしているため、若干厳しいところもありますが4点とさせていただいております。

7-35について、1~4番については、自己評価につきましては4点とさせていただいております。

7-36にていて、4点とさせていただいております。

7-37について、1~4についてそれぞれ明確に明記させていただいており、年度途中の変更もありません。

8-38について、ちゃんとしていると評価しております。

8-39について、きちんとできていると思っています。

8-40について、内部監査も行いましたし、問題ないかと思っています。

8-41について、情報公開されておりますので問題ないかと思っています。

9-42について、適切な対応をしていると思っています。

9-43について、適切な対応をしていると思っています。

9-44について、リハビリテーション教育評価機構と私立学校・専門学校評価機構より第三者評価を受けておりますので、4点とさせていただいております。

9-45について、昨年度分公開しておりますし、今年度分も皆様方から評価いただいた結果を集計しまして公表する予定であります。

10-46について、子どもの相談室や地域貢献など広く社会貢献を実施できているかと思っています。

学生のボランティアを奨励し支援しているかに関しましては、レポートは記入していますが振り返りまで活用できているとはいえないため3点とさせていただいております。

11-48について、本校は過去において中国の留学生を受け入れたことがあります。国家試験の学校となりますので留学生を受け入れるのが難しい状況であります。希望者があれば対応できる可能性があるかと考えています。

いまの時期になりますと中国の研修生を受け入れておまして、学生との交流も図っておりますので3点はつけさせていただいております。

4. 平成30年度重点項目説明について

(赤松事務次長)

平成29年度なんですけども、提携病院は理学で3件、作業で2件、視能で1件確保させていただいております。教員が提携病院の方に行かせていただきまして、勉強させていただいたり平成29年度から行えるようになりました。実習で悩んでいる学生さんを積極的に提携病院にお受けいただけるという協力関係ができつつあります。

学生募集について、335名が目標だったのですが、324名と11名ショートしてしまいました。原因といたしましては、大阪医療福祉専門学校では社会人のコースがございまして、言語聴覚士学科は大学卒業の2年制課程、視能訓練士学科1年制の方が、短大・大学卒で1年制課程になっているのですが、今の大学生就職は非常にいいということで体験入学に来られる方も激減しておましてその当たりで11名ショートしてしまいました。経営を揺るがすほどのマイナスではありませんが、今年頑張って次年度は335名集めたいといくことでまた30年度のところでお話させていただきます。

退学率については、前の年には4%をきっていましたが、5.1%になりました。この理由が通年休ませてくださいという学生が平成29年度には14名と多くいらっしゃいまして、その方々を毎月1回面談を行っていましたがやはりやめますという方がいて全体で5.1%となりました。

学費については、全員完納していただきました。学生さんや保護者様に感謝しております。

国家試験ですが、全国平均を上回ることができましたが、全部100%というわけではありませんので、こちらにも課題を残しています。

就職については、希望する学生すべてが就職することができました。教員の自己研鑽についても学校の方で支援しておりまして44名の教員のうち20名が修士課程を取得中という形になっています。業務効率化なんですけども、CBTの試験を去年から開始しております。これはコンピューターによる試験で、紙の印刷がいりませんし、すぐに結果もでますし、これは30年度でもお話しますが、今年から全学科実施しております。授業評価も先ほど言いましたが、ウェブで授業アンケートを実施しております。年に4回行っております。卒業生の支援ですが、全学同窓会などで表出させていただいております。

施設設備なんですけども、大阪医療福祉専門学校も17年目になりまして、老朽化しているところもあります。平成29年度には男子トイレを全部改修させていただきました。防災に対する支援ですが、それまで訓練は1回だけでしたが、地震津波と火災を2回平成29年度からさせていただいております。これを振り返りまして、今年30年度の中間報告をさせていただきたいと思います。

提携病院の数は増えていないのですが、これから学生さんが実習にいった時に教員がいきまして提携病院を増やしていく予定です。

学生募集ですが、適性AO入試が6月より始まりまして、今日の時点で136名がすでにエントリーしてくださっています。昨年度と同等と推移していますが、言語聴覚士学科と視能訓練士学科1年制が去年よりは少しいたため、なんとか定員を確保できるかと思えます。退学率ですが、すでに3名退学者がでていますが、内2名が休学をしていた学生さんです。あと1名というのは御家庭のある学生さんで両立が難しいためおやめになりました。オープンキャンパスから入学までの間にきちんとそういうことをしていけないといけないと痛切に思っています。現在長欠4名、休学8名でしておりますのでこの当たりを学科と学校でフォローして、月1回面談と課題を出させていただいています。いつ復学してもいいような体制はつくっております。

現在学費の完納状態ですが、分納や奨学金を借りている学生さんが、5割おられますので、分納で支払われる学生さんが212名、現在933名の学生さんのうち212名が分納という手続きをとっております。国家試験の取得率100%を目指すということで、JWEBを利用してスマホから国家試験の問題がとけるようなシステムを電車の中などでしてもらえるようにしています。

既卒生に関しましては、19名いておりますが、午前中に図書室に来ていただいて一生懸命勉強をしています。教員もついていきますので今年は受かってほしいと思います。留年生に関しまして、授業にでる必要がない場合、図書室を利用させていただいて学習場所を確保しています。

就職について、一般と違い遅いのでまだ1名しか決まっております。304名が就職を希望されておりますので、作業療法学科が1名決まっていますがこれから決まっていくかと思えます。教員のさらなる資質というところで、急に1名移動となり教員が足りないため今募集しています。その教員が修士をもっていたため、44名ではなく43名となります。認定理学療法士認定作業療法士など取られている教員も8名おられますので学校がどんどん支援しています。

ワークライフバランスについて去年の10月から大阪医療福祉専門学校では本格的に力を入れていきます。単純な作業、DMを送るのなどは、外部委託させていただいております。名簿の流出などあるため、

学校にその業者さんに来ていただいて業務の軽減を図っております。

安全衛生委員会も強化しております、衛星委員は3名資格を取っていただいて配置をしております。事業評価も先ほどいったとおりでございます。

全学同窓会の内容も各学科に特化したものではなくてマネジメントを主流としたものに変えていっていますので、どの学科の卒業生でも満足して参加できるようにしています。年間同窓会の活動は30回以上はしておりますけれどもそういったマネジメント的なこともしています。

設備もだんだん汚くなっているため、ブラインドの方を改装させていただきます。遮光カーテンの方に改装させていただきました。

インフルエンザとノロウイルスなどの感染対策を徹底するというので去年も徹底しましたが、インフルエンザの予防接種も行っているが、違う型のウイルスに感染してしまい流行ってしまいました。国家試験をインフルエンザのため1名別室で受けました。今年はそうならないようにもっと強化していきたいと思います。

防災については、700名分の非常食セットを購入しました。

5. 質疑応答

(湖崎委員)

①点検項目というのは毎年同じなのですか？

岸村部長

→点検項目は毎年同じです。昨年度までは基準がなかったのですが、今年度初めて判定基準をつくりました。

(段上委員)

②卒業生の立場から見たときに、特に判断基準について昨年度にはなく今年度よりできましたが、学校運営のところで全体的に教職員との関わりで、教職員の将来構想を公表しているや教職員から意見をしやすい環境に設定されている、といったところで、運営組織として大きい母体だと思いますが、上と下の連携はとれているのかもしれませんが、実際に学生に関わる教員と運営というところが乖離している印象を受けました。自分が学生だったときに乖離した組織で本当に連携がとれているのかなと非常な疑問を持ちました。将来構想が役職者は公表されているが教職員が公表されていないというようなところで学生とかかわる教職員が何を目標としてやっているのかが明確でないと結果的にその意見交換ができないので情報を吸い上げることができない。年次年次を迎えるごとに乖離していくので、早い段階でここに点数がついていないことに着目して取り組むべきだと思いました。あと、ついていないチェック項目として、検証ということばがある。PDCサイクルを回していかないと3点、4点という点数になる。

(赤松事務次長)

→滋慶学園は大きくて理解できていないところがある。情報をとり教職員に伝えていきたいと思います。

(大槻教務課長)

運営と教育の乖離について、近年卒業式や入学式など全教職員が集まる場所、FSDS研修会という学内の研修などで運営と運営に基づいた教育を示す場としていますが、1、2回では伝わらないところもありまして、やったことを検証するCAのところをしっかりとしないといけないと感じております。

(中山委員)

③資料今ここで配布したものですか。

(岸村教務部長)

→いちおう事前配布しております。コメント欄をつけたものを今日配布しました。

評価については、本日つけてもらうのではなく一度お持ち帰りいただいてつけていただきます。

(中山委員)

④評価するためにポリシーがあって、それに沿ってかく重点項目をやりましょうと実施していただかないといけないので考慮してください。

(勝元委員)

⑤資料を見ていてこんなことをやっているんだなと率直な感想として思いました。10点満点で4点になっていないところがなになが4点にならないのか想像して聞かせていただき理解することができました。2点しかついていないところがあったが、我々もっと学生を受け入れるよう改善を考えていきたいと思いました。

(岸村教務部長)

→我々も実習先ともっと話しをして意見交換をしていきたいと思えます。

(島袋委員)

⑥保護者の立場として、学生支援で保護者会に参加させていただいた中で気になることはマナーでした。スーツを着て身なりをきちんとするなどまだまだ認識不足だと感じました。就職した方のコメントをいただけるのが凄くいいと思いました。卒業した学生がどのようにしているのか非常に興味があったので有意義な時間だと思っているのですが、参加者が20名いており聞こえなかった。保護者様の質問も聞き取りにくかったので残念だった。事前に参加する保護者様から質問を受けておいてそれに答える方がもしかしたら良かったのかと思いました。

(岸村教務部長)

→人数が多くあのような状態になってしまい申し訳ございません。

(大槻教務課長)

医療を目指す学校でありまして、病院の中での立ち振る舞いというのは本当にだれからも見られている職業だと思います。就職といったキーワードの中での行動やマナーといったところは学校としてさらに強化して学生さんに伝えていきたいと思っております。

御提案いただきましたように次年度保護者様とのコミュニケーションの場を催していきたいと考えております。事前に質問を受けるといった意見を姉妹校とも共有しまして検討課題とさせていただきたいと思えます。

(田中委員)

⑦判定基準の話をしていただいてなぜ3点、4点になるかを説明があり理解することができました。地域としては、高齢者食事サービスを行っており、その時に学生さんが来られ、すごく喜んでくれて助かっています。祭りにも参加してくれて本当に皆さんいい顔で喜んでいたので、さきほどの話が想像できませんでした。

うちでボランティアではそういったことはなかったのでここは徹底しているなど話していた。地域としては専門学校の学生さんに助けをいただいで関心しております。

防災訓練をなさっているので、可能ならば地域と連携させていただきたいと思いました。

研究発表に参加させていただいて、感動したのは研究の内容はわからなかったが、どの発表も患者さんのことを考えて実験されていると感じました。これは学校全体でそういう教育をされていると感心しております。長い時間でしたが、話をする人もいなかった。

(湖崎委員)

⑧学生でまだ子どもなので、就職したら年功序列のヒエラルキーがあるのであまり心配しなくてもいいかと思います。

学校側としては親御さんから預かっている。僕らは嫌ならやめろというスタンスで臨みます。学校は同じ立場の人が集まるので一緒に考えるのは難しいと思います。

学生のとくに聞いてもその重要性がわからず、卒業してからもう一度聞きたいとなった場合、有料で聴講生として聞けたらいいのではないかと思います。

(赤松事務次長)

→以前はワンコインで聴講を受けたことがあったがその後要望がありませんでした。また学校のほうで議題に上げて一度考えてみたいと思います。

(湖崎委員)

⑨定員割れについて、企業なんかでも若い子は3年くらいでやめてしまう。ヘッドハンティングとか友達の引き抜きなどがあり、企業では若い人を育てにくい。お金をかけて3年育てても他にいつてしまうのであれば、育てるよりも育った人をとる方がいい。資格を100%とらせているのでこの学校の募集については心配していません。ニーズとしてはつぶれない業界ではある。いかに高校と連携しているのかということになるかと思います。

(大槻教務課長)

学生が能動的に学習する分は積極的に取り組んでくれますが、受身として参加しているところは普段の自分がでてしまっているところはあるかと思います。

近年アクティブラーニングが学校の中では盛んに言われていますが、学生さんがより能動的に取り組んでいくことができるような教育をやっていきたくと思いますのでまたそこに向けた御意見をいただきたいと思っておりますので今後ともよろしく願いいたします。

6. 事務連絡

(澄川事務課長)

本日お渡しさせていただいております報告書の方ですが、いちおうコメントを書く欄がありますので、委員の先生方にはなにかありましたらコメントの方を記入いただきましてレターパックを下に置いておりますのでそちらの方に入れて送り返してもらいたいと思うのですが、もしデータの方がよろしければ私の名刺の方を置いておりますので、アドレスの方にお名前とメールを入れていただきましたら明日には先生方にお送りさせていただきますのでよろしく願いいたします。